報告

日本技術士会北海道支部事業委員会

第９回　技術フォーラム

一般課題　ウランバートルの都市再編　　特別課題　徹底討論！「THE 技術士」さらなる飛躍のために

鈴　木　智　之

まえがき

本報告は、技術士会会員に CPD の機会を提供するとともに、会員の自由な意見交換の場を設けることを目的として年 1 回開催されている技術フォーラムに関する開催報告である。フォーラムの概要、参加者等を以下に示す。フォーラムは、個人的な意見や提案などの自由発表となる一般課題と特別課題の 2 部構成となっており、特別課題に関しては、14：00 ～ 17：00 の 3 時間に基調講演、パネルディスカッションが開催された。

表－1　フォーラムの概要

日　時：平成23年2月23日(水)　13：30 ～ 17：00 場　所：札幌ガーデンパレス札幌(札幌市中央区) 参加者：125名(会員94名、非会員31名)	
【一般課題】　講演時間20分	
①ウランバートルの都市再編	紺野寛技術士
【特別課題テーマ】　講演時間20分 徹底討論！！「THE技術士」～さらなる飛躍のために	
基調講演：お父さんの仕事してみたい。佐藤昌志技術士	
パネルディスカッション　パネラー 佐藤昌志：北海道開発局事業振興部調整官(技術士) 小松正良：釧路市副市長(技術士) 荒木正良：㈱北海道建設新聞　第1報道部長 作間豪昭：渡辺英一法律事務所(弁護士)	

1　一般課題

講演：ウランバートルの都市再編(紺野寛技術士)

JICA プロジェクトチームの一員として技術指・支援をしているモンゴル国「都市開発実施能力向上プロジェクト」の都市再開発法案作成及びウランバートル市における具体的な事業展開のための整備方針・計画に関する講演であった。1992 年まで社会主義国家であったモンゴル国は、日本の国土の 4 倍を有し、人口は 270 万人である。そのうち、110 万人はウランバートル市に在住する。10 年前は 60 万人都市であったが、2 度の大雪害により家畜を失った 50 万人の遊牧民がウランバートル市に集まり、上下水道や道路等の社会インフラが未整備の丘陵地に居住することとなった(写真－ 1)。

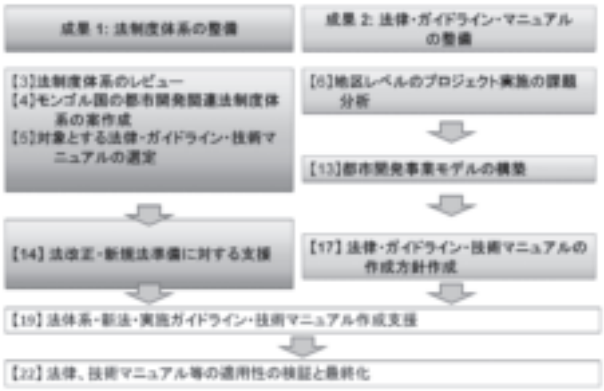
写真－1　市内中心部に近いゲル地区

写真－2　煤煙による視界不良

この丘陵地は稚内と同緯度の北緯 47 度で、手稲山より高所(標高 1 ,351 m)にあり、冬の平均気温－ 24 度(厳冬期－ 40 度)である。暖房は石炭ストーブが中心のため、煤煙が盆地状のウランバートル市内を覆い健康被害が著しい(写真－ 2)。

このため政府は、都市部の再編成により環境向上

を図ることに着手した。都市部の国有地と老朽化した建築群、周辺部の個人所有地とゲル群、土地の売買概念を理解ができない国民性の背景のもと、法案作成・事業化のために政府、ウランバートル市職員に対して技術指導中とのことであった(図－1)。



図－1　ワークプラン

2　特別課題

テーマ：徹底討論！！「THE 技術士」～さらなる飛躍のために

2．1　テーマ設定の目的

今回のフォーラムは、技術士の知名度について議論しました。これまで技術士の知名度に関する議論は、様々な機会でされており、北海道支部においても第 6 回技術フォーラム(2007)で知名度が低い理由とその解決策がまとめられています。それから 4 年が経過した現在、「何かが変わった」と実感が持てないのが実情であります。そこで、今回は、これまでの視点を変え、知名度そのものについて議論することを目的としました。

【今までの議論と今回との違い】

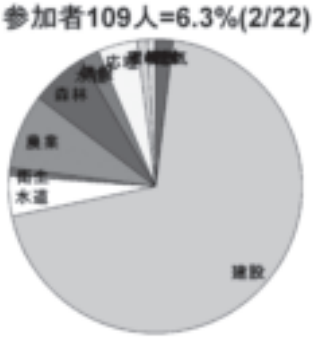
※そもそも知名度 UP は必要なのか？

※技術士の内向き論から、発注者・市民目線で考える。

【第 6 回技術フォーラムでの解決策】

知名度が低い理由⇒解決策
・技術士の数が少ない⇒資格者を増やす
・市民に密着していない⇒積極的な社会貢献
・社会的地位が低い⇒資格の積極的活用
・業務独占でない⇒職業的地位の明確化
・公共事業以外、資格の使い道がない

2．2　会場アンケート



参加者の部門は、建設・農業・森林・水道部門で全体の約 8 割以上を占めていました。参加者全員に対し挙手によるアンケートを実施したところ、知名度 UP が必要か？との問いに対し、会場では約 8 割が必要との結果となりましたが、パネラーからは不要との意見が多数を占めました。会場の多くの参加者が予想していなかった結果に、場内の雰囲気は意外とのどよめきが起こりました。以下にアンケート結果を示します(表－2)。

表－2　アンケート結果一覧表

質問事項	選択肢	会場(人)	パネラー			
			佐藤	小松	荒木	作間
知名度は高いか？	高い	0				
	低い	93	○	○	○	○
知名度 UP は必要か？	必要	58		○		
	不要	17	○		○	○
知名度 UP は誰に対して必要か？	一般市民	48		○		
	依頼主	8				
	組織内	0				
知名度 UP は誰のために必要か？	自分	6				
	技術士会	21				
	社会	29		○		

〈知名度が低い理由〉

・【小松】技術士の価値が相対的に低くなってきている。問題解決能力が必要な技術士だが、近年は問題解決の経験の少ない若い人が合格している(若いからといって不合格にできない)。

・【荒木】技術士(国家資格)の分野が多岐となり、何の資格なのかがわからない。

・【荒木】技術士のドラマ、映画がない。

・【荒木】技術士会は、スターを生まない風土がある。技術士会のトリックスターがいない。

〈知名度 UP が不要な理由〉

・【会場】知名度は、高評価を受けて上がるものである。評価は社会がすることであり、知名度 UP のための活動は不要である。知名度は、成果についてくるものである。

・【会場】給料が上がれば、知名度はどうでもよい。

知名度 UP の議論は人から認められたい欲求である。

〈知名度 UP の必要性【小松】〉

知名度 UP は、施主にしても現状と変わらない。技術士は市民に対して、話を聴きたい人（技術士）と思われないといけない。そのためにも、情報発信をし続けることが重要であり、市民とのチャンネルを持つ必要がある。聞いてくれる人がいないと、言いたいことも言えないのではないか。

写真－2　会場風景

2．3　さらなる飛躍のために

これまでの議論で、フォーラム開始直後にあった、「知名度 UP のための活動をどうする？」という雰囲気は少なくなり、知名度 UP の活動ではなく技術士がさらなる飛躍をするための方策として、以下の意見が出されました。

- 【佐藤】人に対して、しっかりと説明できることが大事である。うわべだけの技術では、市民と関わりあえない。技術士だろうがなかろうが関係ない。
- 【荒木】科学技術の最高の資格として 21 部門あるが、建設関係が多数を占める歪な構造である。市民と建設関係は、あまりにも距離があるため、技術士を理解してもらうには限界がある。これまで、技術士会としては、知名度向上に様々な活動をしてきたようであるが、別な方向へ向ったほうが良いのではないか。
- 【会場】NPO 法人等で活動している人には、技術士が少ない。市民は、技術的な手助けを求めている場合が多い。積極的に参加すべきである。
- 【佐藤】活動方針を定めて、組織だってやることが大事である。
- 【小松】技術士のネットワークですべき（組織でやらないと効果が少ない）。
- 【佐藤】市民との対話が必要である。一方通行では NG である。
- 【佐藤】異業種と積極的に付き合うこと。外向きな視点を持たないと埋もれてしまう。

4　おわりに

最後に技術士に対し、施主である佐藤氏より、「技術士に期待すること」と「技術士キャッチフレーズ」が紹介された。これらは、佐藤氏が所内で聞き取りした結果である。現在市民から遠い技術士が、積極的に情報発信し、国民の身近なパートナーになるべく活動することが会場全体で確認された。

技術士に期待すること

- 真に必要な技術力支援
- 安心・安全な社会のためのキーマン。技術の開発と維持・継承。
- この資格を持った人がやっている仕事なら安心
- 困っていることがあるなら技術士さんに聞いてみよう！
- 社会生活を維持する上で社会的責任を果たす人
- 時代に合わせた高等技術の提唱
- 調査から維持管理までの総合技術の企画立案者
- 最新技術の提案者
- サポートではなく社会の課題を解決するパートナー

技術士キャッチフレーズ

- こんなところも技術士のおかげです
- 技術でみんなの安心支えます
- 安心な生活をリードする～技術士
- 安心支えるプロ集団・それが技術士
- 科学技術のプロフェショナル
- 最先端技術のエキスパート
- 世界に羽ばたくクリエイター
- 技術に関するみんなのパートナーです
- 今日は○○に詳しい技術士の××氏をお迎えして・・・
- 兎にも角にも技術士へ

鈴　木　智　之（すずき　ともゆき）
技術士（建設／総合技術監理部門）

（社）日本技術士会北海道支部
事業委員会委員
株式会社 開発工営社